

ーその3 堺市議会のコロナ・子育て・教育議事録

堺市市議会におけるコロナ審議は、令和1月29日世界遺産と魅力的なまちづくり調査特別委員会議事録01号からみられる。以下ではそのうち、子育てと教育に関わる主な会議録の抄文を示す。

令和2年第1回定例会ー02月27日-03号

◆10番(瀨上猛志君)(P.190)「堺創志会の瀨上猛志です。……/昨日より新型コロナウイルスの感染対策の議論が多々繰り広げられております。堺市ではまだ感染者が確認されていないとはいえ、公衆衛生の確保だけが市として取り組む問題ではありません。中小企業、とりわけ飲食業や観光業を中心に、経営に大きな影響が出ており、廃業を余儀なくされるケースも予想されます。中国に滞在歴のある方や中国から来られた方、中国にルーツのある方への差別、とりわけ学校園での子どものいじめなども懸念される所です。/昨日の教育次長の答弁(会議録不明一編者注)で、万が一児童・生徒が発症した場合、人権に配慮した児童・生徒等への支援に努めるとありましたが、発症せずとも既に人権上の支援が必要な児童がいるのではないかと推測しております。新型コロナウイルスの感染によって命を落とす方が出ないよう全力を挙げていただくのと同じように、新型コロナウイルスから派生した経済的困窮やいじめなどで命を落とす方が決して出ないように、しっかりと手当てしていただくことをお願いいたします」(以下、市議会議事録からの抄文中「……」はその間に発言があること、「/」は議事録に改行があることを示す)。

令和2年第1回定例会ー02月28日-04号

◆20番(西川良平君)(P.282)「自由民主党を代表しまして大綱質疑2巡目の質問……。/昨日、大阪市では2月29日から3月13日、このたびの新型コロナウイルスによる学級閉鎖、学校の自粛要請ございました。そして国からの要請としまして、臨時休校としまして、全国全ての小学校、中学校、高校、特別支援学校においては3月2日から春休みまで臨時休校を行うように要請がありました。/本市におきましても、各市民の声、そしてのびのびルームはどうするのかあるいは働いている、仕事、子どもを抱えて、そのような相談、私の事務所にも盛んに入っております。我々議員とともに当局におかれましても、この非常事態に精いっぱい、最大限の努力をして市民の安全・安心確保に努力されますことをお願い申し上げます」。

◆27番(石本京子君)(P.296)「日本共産党堺市議会議員団、石本京子で……。/昨日(=2月27日一編者注)は全国小・中学校等に2週間の休校の要請が出されました。感染防止のため、新型コロナウイルス感染ですね、この感染防止のためとはいえ、大きな混乱を引き起こしています。休みたくても休めない保護者、また休めば食べていけない、そういう人も多数に上るのではないかと思います。この問題については、やはり国がその責任をとるべきであります、堺市としても何らかの手だてを講じていただきたいと思っております。」

◎健康福祉局長(隅野巧君)(P.298)「新型コロナウイルスの感染症対策についてお答えいたします。/WHOの緊急事態宣言後、国においては新型コロナウイルス感染症が指定感染症として定められ、また本感染症に対応した医療体制の整備として、各保健所等に帰国者・接触者相談センターを設置し、感染の疑いがある方を帰国者・接触者外来に確実につなげるよう通知が出されています。/本市の対策といたしましては、新型コロナウイルス感染症に関するさまざまな最新情報や手洗い、せきエチケットなどの予防方法について市のホームページ等で情報提供を行うとともに、2月4日に堺市新型コロナ受診相談センターを設置し、感染の疑いのある方等の相談や受診調整を行っております。」

令和2年度予算審査特別委員会第2分科会(文教所管事項)ー03月06日-01号

◆委員(上田)(公明党・上田勝人市議会議員一編者注)(P.146)「このたびの新型コロナウイルス……。/……この問題では、政府から急な学校園に対して臨時休校の要請があり、本市小学校も休校になるなど大変な状況が続いておりますが、御家族の皆様や教職員、当局の皆様にも御苦労と御負担をおかけいたしております。この問題が発生し、臨時休校になるまでの間、感染症対策に学校園ではどのような対策

を取られていたのかお示してください。」

◎**学校管理部副理事兼保健給食課長(田中) (P. 147)**「新型コロナウイルスに関連いたしました感染症対策に関する対応といたしまして、文部科学省からの通知等によります風邪やインフルエンザへの対応策と同様に、手洗いやせきエチケットなどの基本的な感染症対策を行うことが重要であり、その旨の徹底を各学校園に指導しております。また、免疫力を高めるために、十分な睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事を心がけるよう指導するとともに、保護者との連携を密にいたしまして、しっかりと健康観察を行うこととしております。もし発熱等の風邪の症状が見られるときは、無理をせず自宅で休養するよう指導してございます。」

◆**委員(上田) (p. 147)**「……臨時休校までの間、教室等における適切な環境保持についてはどのようなものであったのかお示しをください。」

◎**田中学校管理部副理事兼保健給食課長 (p. 147)**「各学校園に対しましては、適切な環境の保持のため、教室等の小まめな環境を心がけるとともに、空調や衣服による温度調節を含めて、温度、湿度の管理に努めるよう指導しております。」

◆**委員(芝田) (公明党・芝田一しばたはじめ議員一編者注) (P. 172)**「3日の読売新聞で、オンライン学習無償提供、泉大津市というのがございました。この内容について簡潔にちょっとお示しいただければありがたいです。」

◎**教育センター参事(藤本) (P. 173)**「泉大津市の取り組みですが、今回コロナ対策としまして、学校に今通えなくなった子どもたちが自宅での自学自習をするに当たって、そういうコンピューター上で行うドリルのようなものを業者のほうから提供を受けて紹介をするというような内容であったかと思っております。」

令和2年度予算審査特別委員会第1分科会(総務財政所管事項) -03月09日-01号

◆**委員(藤本) (藤本幸子さちこ共産党議員一北川注) (P. 201)**「会計年度任用職員制度はこれまでも国会で取り上げられ、議論もされてきました。実際の運用において非正規職員の処遇改善につながる活用となるよう、堺市でもぜひそういった活用をされるようお願いいたします。／また、今回の新型コロナウイルス感染症の影響など、非正規職員の方が急な休みをとらざるを得ないという場合もあるかと思えます。この制度は、そうした場合にもその方たちの賃金及び休暇は保障されたものとなるのでしょうか」

◎**濱脇労務課長 (p. 201)**「本市の事情により業務が中止になった場合等についてでございますが、その点につきましては、会計年度任用職員になりましても一定保障がされるものと考えてございます。」

令和2年3月18日市民人権委員会-03月18日-01号

○**委員長(宮本) (宮本恵子みやもとけいこ公明党議員一編者注) (P. 105)**「陳情第4号行政にかかる諸問題についてのうち第15項について、畠山久子さんから意見陳述を行っていただきます。／それでは、畠山久子さん、御入室願います。」

○**委員長(宮本)**「意見陳述者に申し上げます。陳述時間は3分以内となっております。意見陳述が始まりましたら、意見陳述の際の注意事項を遵守の上、陳情の提出に至った思いや意見について述べてください。／それでは、畠山久子さん、住所、団体名、氏名を述べていただいた上で意見陳述を始めてください。」

◎**畠山久子氏 (P. 105)**「堺市北区百舌鳥本町1丁38の6、新日本婦人の会堺支部、畠山久子です。／最近、世界中で異常気象による台風、豪雨などに襲われ、地震などもいつ起こるか対応が急がれています。しかし、今現在、コロナウイルスという病原菌で、災害とも言える犠牲者が増えており、終息のめどが立っておりません。天災はともかく対応の遅れによる人災とも思える犠牲者に対して、私たちは今までにない不安に襲われています。市民の日常生活における影響は過去に経験したことの無い逼迫感に襲われています。そのため、何よりこのような危機感から市民の命や暮らしを守るための施策を優先

してください。／今回、国の緊急要請による園や学校の突然の休校措置は、学校が休校になればお母さんが家にいて、おじいちゃん、おばあちゃんが近くにいてという想定で決められたようにしか思えません。親や子どもも戸惑っており、子どもの居場所をどうすれば、仕事を休めないという声があります。高齢者や子どもの体調が悪いときどうすればいいのか、そのため閉じこもってばかりで変になりそうという不安の声が聞こえます。健康な子どもや家庭、働く人の暮らしをどう維持し、保障できるのか、正確な情報を知らせ、対策も立ててください。不安なときはいつでも病院にかかれるよう、医療体制も見直し、関係者や当事者の現状を知り、まず暮らしを守り維持させるための対応を講じてください。／今はどの人にとっても暮らし方が変化せざるを得なくなっています。専門家や現場の声を聞いて、迅速に適切な対応をしてください。堺市独自としての方針を検討し、いざというときにすぐ動ける堺市の危機管理の体制と市民の生活に関わる救済措置を発揮してください。何より危機管理に対する予算や人員を増やし、また相談窓口を充実させてください。仕事が突然なくなる中小企業や個人企業、商店などにも対策を講じてください。今は市民にとって暮らしが成り立つかどうかの瀬戸際に立たされています。今、公園やまちを歩きトレーニングに励む高齢者をよく見かけます。誰もが安心して過ごせるよう緊急にこれらの対策を講じてください。／以上で終わります。」

令和2年3月19日文教委員会-03月19日-01号

○野里委員長（野里文盛のぞとふみもり自民党議員一編者注; (P. 335) 「陳情第11号放課後施策について、藤田実乃理さんから意見陳述を行っていただきます。／それでは、藤田実乃理さん、御入室お願いします。」

○野里委員長「意見陳述者に申し上げます。／陳述時間は3分以内となっております。意見陳述が始まりましたら、意見陳述の際の注意事項を遵守の上、陳情の提出に至った思いや意見について述べてください。／それでは、藤田実乃理さん、住所、団体名、氏名を述べていただいた上で意見陳述を始めてください。」

◎藤田実乃理氏 (P. 335) 「堺市北区中百舌鳥町4の39、堺学童保育連絡協議会、藤田実乃理です。／3年前にプロポーザル方式の事業者選定がのびのびルームに適用されたときから伝え続けているんですけども、3年ごとの事業者選定は学童保育事業にはそぐわない方法です。／子どもや保護者は建物やホールではありません。大切な人格形成途中にいる人間です。市民のはずです。この秋に行われた選定で、中区と西区の運営事業者が替わることになりましたが、2019年度、主任を務めている指導員のうち過半数以上がルームに残らないという判断をされたと聞きました。事業者が替わるのですから、指導員が替わるのは当たり前のことですが、今現在も求人募集で、のびのびルーム指導員の求人が目立っています。／放課後児童クラブ運営指針では、放課後児童クラブの運営主体に変更が生じる場合には育成支援の継続性が保障され、子どもへの影響が最小限に抑えられるように努めるとともに、保護者への理解が得られるように努める必要があるとありますが、ケアワーカーがそろわない現状、コロナウイルスの自粛措置がとられる現在、4月からの保育を行うに当たり、保育内容がどのように引き継がれているのでしょうか。／コロナウイルスによる特別な事情があったから仕方ないと子どもや保護者に我慢をさせて、指導員の現場の力だけにずっと任せることを続けるのでしょうか。／ぎゅうぎゅう詰めに、過ぎるルームの現状を鑑みてのことと思いますが、今回のコロナウイルスの1回目の発表が2月29日から放課後支援事業についても全て閉室というものでした。報道関係者の方とのやりとりの中で、堺市の対応は全国の中でも非常にまれな珍しい対応なので、取材が必要と思っていますという評価をされました。3月2日以降、徐々に低学年から受け入れる対応に変わってきていますが、一旦就労家庭の生活や子どものことを堺市は切り捨てたと私は感じました。適正規模で保育できているルームばかりであれば、2月27日に発表されたような判断にはならなかったのではないのでしょうか。／事業者選定をする労力を環境を整える資金にしたりとか、関わってくれてる指導員のスキルや処遇改善のための資源に充てていただきたいと思っています。環境を日ごろから整えて、指導員が勤め続けられるシステムにして

ください。／全国的な流れですから、よりよい保育にしないとイケないですからということでプロポーザル選定事業を3年ごとに繰り返されることを続けておられますが、私たちにはどうしてもしないといけないうことがわかりません。どうしても続けていかなければいけないというのであれば、仕様書の内容にしても、決算報告にしても、よりよい内容にするために変えていかなないとイケないことがたくさんあると伝え続けてきています。検討よろしくをお願いします。」

◆委員(測上) (測上猛志ふちがみたけし堺創志会議員一編者注) (P. 343) 「陳情第12号について質疑を行いたい……／この陳情制度を使ってまで思いを伝えに来る方というのは、やはりかなりの思いを持って来られているということです。我々もこの制度にのっとる陳情ではなくて、事務所をノックされて議員事務所に陳情に来られる方も大勢いらっしゃるわけですが、やっぱり初めて来られる方というのは、すごく勇気を出して来られてる方が多いです。……今回の陳情の回答を見るにつけ、今後陳情という住民本位の行政を進めていく上で大変大事な制度がさもすればおろそかにされているのではないかと、そういう危惧を抱きましたので、取り上げさせていただきました。／本日もこの12号の方ではないですけども、放課後の関係で陳情に来られた方が臨時休校に関して就労世帯を切り捨てたという厳しいお言葉を述べていらっしゃいました。私も大変身につまされる思いでありましたし、本当にそういう市民の皆様がわざわざここまで来て述べていらっしゃるそういう言葉を皆様も、そして私も自戒の念を込めて申し上げますが、大事にしなければならぬというふうに思っております。／……この陳情第12号、百舌鳥小学校のびのびルームの保護者会の代表の方の陳情ですが、頻繁に陳情を出していただいている方だと私は認識しております。その中で、今回と前回、非常によく似た御質問をされていらっしゃいました。／ところが、そこで気になったことがあります。／前回の議会でこの方から、百舌鳥小学校のびのびルームにおける月別の開室日云々とある中で、基本配置が不足していた日数はどうだったかと質問がありましたが、これに関して前回の議会では、平成31年度(令和元年度)の4月から9月に基本配置指導員数が充足していない日はありませんという御回答があったにもかかわらず、今回ほぼ同じ御質問に対して、7月に1人不足していた日数が3日ありましたとお答えが変わってるんですね。このことについて御解説いただけますか。」

◎黒島放課後子ども支援課長(P. 344) 「前回の陳情回答作成におきまして、管理しているデータの抽出の状況を誤ってしまい、不足する日はないと回答を行いましたが、今回同趣旨の質問があり再度調査をしたところ、誤りがあったことに気づいたところでございます。／百舌鳥小学校の4月から9月のルーム開室146日間のうち不足する日が3日あったことを確認し、誤りのあった部分につきましては、今回陳情において正しく回答を行っております。／陳情の回答におきまして、事実確認に対する回答が間違っていたことについて深く反省し、おわびを申し上げるとともに、同様の誤りが起こらないよう今後努めてまいります。」

◆測上委員(p. 343) 「単純なミスであれば仕方ないかなと思う面もあるんですが、そうではなくて、やはりこういう陳情に対する姿勢が私はひょっとすると甘かったんじゃないかなと疑わざるを得ないような気持ちになっています。／それは、ミスだけではなくて、お答えに実に誠実さを欠くようなやりとりが散見されるわけでありまして。／例えば今回の陳情、この12号の陳情の中でも、このような質問があります。……指導員不足について、当該日に出勤している指導員全員でルーム運営していますとあります。これは以前の回答のことだと思いますが、これは具体的にどういう状況を指しているのか確認してください。これに対してどう答えたか。当該日に出勤している指導員全員でルーム運営を……行っていますと。わかりますか。当該日に出勤している指導員全員でルームを運営していますとはどういうことかといって、これオウム返ししてるんですよ。具体的にはどういう状況かと全く説明してないわけですね。／こういうのもありました。／卒業式を終えた6年生は卒業式から終業式までの日の間、一足早い……春休みであるにもかかわらず、のびのびルームや放課後ルームを朝から利用できないのはなぜか。どうですか、わかりますか、この状況。小学校6年生が卒業式終わった。中学生までの間、春休み長い

ですね。普通の春休みであれば、朝8時からあるいは9時からのびのびルーム、放課後ルームやってみずけれども、卒業式を終えた6年生が朝から利用できない。これなぜかと聞いているんです。なぜかです。／この答えが、のびのびルーム、放課後ルームは卒業式の日から終業式の日までの期間は放課後からですと。何も理由を答えてないです。この方は朝から利用できない、つまりは放課後からだということに対してなぜかと聞いているのに、放課後からですと答えているわけですよ。／これどうですか。議会でこんな答弁したら、止まりますよ、ほんまに。このことについてちょっと御見解述べていただけますか。」

◎黒島放課後子ども支援課長 (p. 344) 「陳情の回答につきましては、できる限り内容がわかりやすくなるよう、修飾語の少ない文章での回答に努めているところでございます。／ただ、明確に答えていないとの御指摘につきましては、今後陳情者の方に御理解いただけるよう努めてまいります。」

◆淵上委員 (p. 344) 「内容がわかりやすくなるようにこうしたと。さっきのようなオウム返しのような回答、なぜかと聞かれているのに、その事実をそのまま返してるだけ、これがわかりやすいんですかね。／私はこれは内容がわかりやすくなるようにじゃなくて、皆様の仕事が早く済むように、毎回毎回、これ言い方悪いかもしれませんが、陳情される方、固定化してる節はありますよ。ひょっとしたらね、あまたこの人かと、またこの質問かと適当にやつつけ仕事で回答したんじゃないかと、そう思えてならないわけですよ。恐らく私が思う以上に、この答えをもらった方は一層思うことだと思います。／先ほど申し上げましたが、陳情に来られる方というのはそれなりの強い思いを持って来られています。皆さんからすると固定化していて、またこの人かと、変わった人が来たとか、まさかそんなことは思っていないでしょうけれども、その向こう側には本当は堺市に対して物が言いたいけれども、なかなか勇気が出なくてとかあるいは陳情という制度そのものを知らないとか、議員の事務所をノックするのはちょっと気が引けるとか、いろんなことで押し黙っている人も私はたくさんいるんだと思います。／この目の前の人、自ら思いを伝えに来られた人に対して誠実にできないそんな職員が、目の前にいない向こう側にいる、なかなかすぐには気づかない83万人の市民の思いに寄り添えるとは、とても思えないです。ぜひこのことを猛省していただいて、次以降、陳情に対する御対応改めていただきますように、そしてまたこれは私、放課後子ども支援課長は今回こういう形で取り上げまして、何か支援課長だけが悪いかのようには私は言ってるように聞こえるかもしれませんが、そうじゃないと思うんですよ。これは教育委員会だけではなくて、ほかの部局も含めて、本当に自ら声を出しに来た市民に対して誠実であったかどうか、これは文章にも残ってますから、ぜひ他の部局も含めて見直してもらいたい……／そしてまた私自身も、議員48人、自戒の念を込めて、我々のところに来た市民の方にも果たして我々は誠実にできてるのか、思い返していかねばならんなど今回の件で強く感じたところです。……／そしてもう一つだけ、1問目の答えに関してはミスでしたというようなお答えだったんですが、仮にミスだったとしましょう。／その中で、この陳情主の方が前回のお答えを見て、そんなはずはないと、不足してる日があったんだということで、公文書の公開請求をされてるんですね。その文書をちょっといただきましたら、のびのびルームの業務日誌というのはこういうものになっていまして、手書きでそれも多いルームだと10人ぐらい指導員さんがいる中で、それぞれ手書きで配置した時刻が書かれていて、恐らく今回皆さんは不足していた日はないのかという問いに対して、こういう手書きのものを全て皆さんはチェックしながら御回答をされたんだと思います。そしてまたその中で、皆様の言うところのミスが発生したんだと思いますが、見ていただいたらわかるとおり、7時半から入った人、8時から入った人、9時半から入った人、10時から入った人、この中で定員が本当に指導員が配置されてたかどうかチェックする、これ大変な作業だと思います。これもちょっと改善できないものですかね。／例えば午前中といっても7時半から入ってる人もいれば10時から入ってる人もいます。じゃあ、これは当日指導員が配置基準を満たしていたのかと言われたときに、満たしていたのかもしれませんが、断定できないんです。なぜならば、これに対して上に129人の子どもが利用したとありますが、この129人の子が何時からいたかというデータがないんですよ。ひょっとしたら129人全員が8時から来たのならば不足していたかもしれ

ないし、朝から順次ばらばらと来て昼前ぐらいに全員そろったのなら足りていたのかもしれない。なかなか検証ができないわけです。／私、もう少しこの業務日誌ですか、特に指導員の配置、そして子どもたちがどのような形で利用していたのか、もう少しやっぱりはICT化するべきじゃないかなというふうに思います。／例えばカードか何かがあって、ルームに来たらピットとして、この時点で子どもは何人いて、それに対して指導員が何人いたというのがすぐに分析できるような形をとれないのかなというふうに思います。皆さんにとっても、これチェックするのは大変だと思うんです。／そこで伺いますが、ICT化について積極的に図っていくべきと考えますが、当局の御認識をお示ください。」

◎黒島放課後子ども支援課長(P. 347)「現在各ルームにおきましては、パソコン等の通信環境が整備されていないため、運営日誌の作成等は基本手書きで行いまして、各運営事業者本部が毎月各ルームを巡回し、回収している状況でございます。／委員御指摘のとおり、業務の検証を行う関係書類を含めまして、必要な書類の作成に各ルームの指導員、私どもの事務局職員につきまして相当の時間を要しており、指導員の配置状況を確認するためにも時間を要する状況でございます。／今後迅速な確認・検証作業を行えるよう、各運営事業者とも協議を行いまして、作業の効率化を図るため本事業のICT化の検討を進めてまいりたいと考えております。」

◆淵上委員(P. 347)「ぜひ迅速に進めてください。放課後全体でいいますと、かなりの予算が毎年計上されていますね、20億円ぐらいですかね。多くが運営事業者への委託料であり、さらにその委託料の多くが人件費というわけですが、それでもこの事業に20億円ほどのお金を使ってるわけですから、その莫大な予算に比べれば、ICT化するぐらい私はわけないと思いますし、そしてICT化すれば、それだけたくさんの方が動いてる事業、一人一人の仕事量がほんの少しでも楽になれば、全体としては物すごく大きなコスト削減なり労力の削減なりあるいはそれによって子どもの保育が充実するということにもつながるんじゃないかなというふうに期待しておりますので、ぜひ冒頭おっしゃられたミスなんか今後二度とないように、ぜひICT化を進めてください。……」

令和2年第2回定例会—06月18日-08号

○議長(宮本恵子君)(P. 368)「次に、日程第八、議員提出議案第24号新型コロナウイルス対策を最優先し、IRカジノの推進の再考を政府及び大阪府に求める意見書を議題といたします。／提案理由の説明を求めます。27番石本京子議員。」

◆28番(石谷泰子君)(P. 368)「日本共産党堺市会議員団を代表し、……討論を行います。／新型コロナウイルス感染症の暮らしと経済への影響が長期化する中、本補正予算案には一定の前進と言うべき支援策の強化が盛り込まれました。民間施設における感染症対策として障害者福祉施設等へのマスク・消毒液配布、介護施設・障害者福祉施設等の利用者または職員に感染者が発生した場合の経費支援、また市民生活支援として低所得の子育て世帯への保育料、第1子・2子無償化、介護障害者・障害児通所サービスへの支援など、これらは市民の声と議会の論戦が実現に導いたものであり、不十分さや改善すべき点があるものの賛成できます。／GIGAスクール構想、1人1台パソコン整備の年内前倒しですが、今年度予算では、小5、小6、中1の3学年分整備し、あと4年かけて残り6学年を整備するという予定でした。ところが6万4,000人分のノートパソコンを12月までに整備するとして約5億8,000万円を計上しています。国は1人1台端末の早期実現を目的に予算補助するもので、堺市は、言わばその補助金のためにやるものであります。ここに教育的な視点は見えません。パソコンでどんな授業をして何を教えるのか、教職員研修もこれからです。さらに通信環境の整備、各家庭の通信費、幾らかかるのか、誰が負担するのか、全て未定です。これから対応していくとのことであり、一度導入したら維持管理に毎年の教育予算の多くを食われてしまうことになるのは明らかです。／こういった状態の中で、国の押しつけにくみしない自治体もあります。佐賀県鳥栖市では、GIGAスクール構想への考え方について天野昌明教育長は、効果的な活用には段階的な導入が必要で、現時点では同構想に乗る考えはないと述べています。／……本市では、どうやって効果的な活用ができるのか答えられず、現

場の実態を見ることなく、とにかく導入ありきであります。感染拡大に備えるというのであれば、パソコンより少人数学級と教員の増員が必要です。／第2波、第3波に備えて今やるべきことは何か、堺市は……何を教訓にして今後に生かすのか……。長期戦に備え、万全を期すためにさらなる施策拡大が必要です。次期補正予算案の編成において求めます。／本補正予算案は、医療機関への減収補填がなく、学費の減免、給食費無償化や文化芸術団体への支援など求められている支援には程遠い内容です。第2波に備え、医療体制と検査体制を抜本的に強化し、新しい生活様式の下での自粛要請と一体の補償を急いで現場に届けるべきです。市内の中小業者支援についても同様に求めます。／このたびの教訓を生かすならば、検査体制は一気にできるように備えておくこと。そうすれば外出自粛や休校も部分的・限定的で短期間で抑えられます。本市が独自施策として水道基本料減額をいち早く打ち出しました。市民のために何ができるのか、市当局が考え、10億円の市費負担で決めたものであります。いち早く実施できたのは、堺市という自治体であるためです。広域化すれば簡単にはできません。調整に時間がかかるでしょう。民間事業者ではできません。堺市が地方自治体として住民福祉の向上という使命があるからこそできたものです。／本補正予算案には賛成することを表明いたします……。」

○議長(宮本恵子君)(P.370)「次に、日程第五、議案第99号令和2年度堺市一般会計補正予算(第6号)号及び議案第100号指定管理者の指定の期間の変更について、以上2件を一括して議題といたします。／提案理由の説明を求めます。」

◎財政局長(坂本隆哉君)(P.370)「議案第99号令和2年度堺市一般会計補正予算(第6号)について御説明申し上げます。付議案件綴及び同説明資料綴(その10)の3ページを御参照願います。／歳入歳出予算の補正は、歳入歳出をそれぞれ12億2,968万9,000円追加するものです。／主な内容につきまして、新型コロナウイルス感染症に係る国の第2次補正予算に対応して児童福祉施設等における感染防止対策に対する補助や公立認定こども園における消毒液等の購入を行うものです。また、ひとり親世帯の子育て負担の増加や収入の減少に対する支援を行うため、臨時特別給付金を早期に支給するとともに、ひとり親世帯が生活再建のためにファイナンシャルプランナーに相談できる体制を整え、家計支援を実施するものです。／詳細につきましては、6ページから9ページまでの歳入歳出補正予算事項別明細書に記載のとおりです。」(以下略、編者)

○議長(宮本恵子君)(P.372)「説明が終わりました。／お諮りいたします。本件については、質疑、委員会付託並びに討論を省略し、それぞれ原案のとおり可決することに御異議ありませんか。／(「異議なし」の声起こる)／御異議なしと認めます。よって、本件は質疑、委員会付託並びに討論を省略し、それぞれ原案のとおり可決されました。」

令和2年第3回臨時会—07月27日-01号

◆3番(中野貴文君(大阪維新の会—編者注))(P.16)「暮らしを支える生活支援の中で、新生児臨時給付金は、4月28日から12月31日までに堺市で生まれたお子さんのために5万円の給付を行う、他の政令市でも行っていない独自の事業であります。堺市の厳しい財政状況の中で子どもを産み育てることをサポートするための予算を捻出していただいたことについて評価できるものであると考えております。／市民の方からお話をいただくのが学校での給食に関してであります。今回の補正予算では、学校給食費の無償化について計上されておりますが、この学校給食費の無償化の必要性について、どのような認識に基づき予算計上をされたのか……」

◎教育次長(田所和之君)(P.16)「新型コロナウイルス感染症による経済的影響を受けている子育て世代の生活支援の1つとして、保護者の経済的負担を軽減するため、市立小学校及び支援学校に通う児童・生徒の保護者を対象に、8月から10月分の学校給食費を無償化するものです。」

◆3番(中野貴文君)(P.17)「大阪維新の会は、市民の皆様からのお声を基に給食費の無償化の要望を出しており、迅速に予算計上をしていただいたことで、多くの保護者の方への支援につながるとともに、現役世代の可処分所得を増やして、少しでも経済の再生に寄与するという観点からも評価できるもので

あると考えています。／新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、学校の休校措置も長期間実施されました。その間、子どもたちは登校することができず、学習の遅れを取り戻すために、現在夏休みを短縮して7月20日から8月6日までと、8月21日から26日までの期間を簡易給食による提供が実施されておりますが、完全給食ではなく簡易給食を実施するに至った経緯をお示しください。」

◎**教育次長(田所和之君) (P. 17)** 「夏季休業短縮期間の学校給食につきましては、当初、夏場に発生しやすい細菌性食中毒や給食調理場内の環境などを踏まえ、安全・安心の観点から完全給食は実施しない方向で検討しております。しかし……夏季休業短縮期間中は4時間授業となり、下校時間が12時30分頃になることから、学校、保護者からの意見や、児童・生徒の健康面や体力面、また他市の実施状況なども踏まえ、安全・安心を第一に実施内容について検討を重ねた結果、調理を要しないパンと牛乳、そしてフルーツゼリーやジャムなどの個包装品を1品追加した簡易給食を実施することといたしました。」

◆**3番(中野貴文君) (P. 17)** 「保護者の方からは簡易給食にもう1品何か追加できないか、おなかいっぱいになっておらず、帰宅後にまた食事を取るのに困っているなどのお声もいただきます。一方で、堺市では、過去に集団食中毒の発生の経験もあり、調理場における環境整備も十分ではなく、一律で一品をしようと考えると、食物アレルギー児への対応、調理員や食材の確保など課題も多くあり、児童・生徒への食の安全を考慮した苦渋の決断であったと感じております。簡易給食は既に開始されており、実施しながらの変更は難しく、今後はそういった緊急時の給食も改善していく必要があると考えておりますが、学校給食の今後の対応についてお示しください。」

◎**教育次長(田所和之君) (P. 17)** 「この夏の簡易給食は、物資の調達などの理由から予定どおりの献立となりますが、今後は、緊急時に学校給食を提供する場合に備え、簡易給食の内容につきましても、他市の事例を参考にしながら、安全・安心な物資の選定に向け、その選択肢を増やしていく必要があると考えております。」

◆**3番(中野貴文君) (P. 17)** 「学校給食は食を楽しむ、学ぶという場でもあると考えております。また、今後再度休校になることや自然災害などの発生も鑑み、改善が必要であると考えますので、食材の選定や環境の整備にも努めていただきたい……。」

◆**3番(中野貴文君) (P. 21)** 「今回のような休校措置が再び生じた場合、また、授業は受けさせてあげたいけれども、終息のめどが立っていない新型コロナウイルス感染症に対して、登校自粛を考える児童・生徒や保護者の方も一定数おられるかと思えます。／寝屋川市では新たに授業のライブ配信も始まり、どこにいても学習ができる環境整備、そのためのICTの活用を行うなどのよい取組も始めておられるところもあります。学校の授業は一度欠席してしまうと同じ授業を受けることができないため、こうした取組は緊急時でなくとも学習支援につながると考えておりますが、堺市ではそういった授業のライブ配信であるとか、eラーニングなどの導入の検討は現在行われておらず、平時では、学校内でのみの使用を想定し、通信機器の管理も学校で行う。しかしながら、緊急時のために各家庭のネットワーク環境の整備を支援をするという矛盾、具体的にどうすれば子どもたちの学習の支援や学力の向上につながるのかを考えて計画を立て、実行、効果検証を行い、さらにより施策をつくり、目的を達成する、これが大切であると考えております。／例えば欠席、出席に関係なく、授業の復習や予習ができるようになるのではないのか、不登校の児童・生徒に対しても有用ではないのか、接触機会を減らすために、家庭訪問や成績表の通知もオンラインで行えるのではないかなど、子どもたちも含め、教職員の皆さんの働き方改革へもつながるような活用方法まで考えておられるのか。1人1台のPCを配ること、管理はどうするのか、教職員がどういった手順で実行をするのかを主な目的にしているように感じてしまいます。通信費に関しても、手を挙げた人は無料で使えるというのではなく、就学援助の必要な家庭を対象に実施をするであるとか、明確な基準を設定しなければ、来年度には今年度よりもっと多くの税投入が必要となり、それを長期間にわたり継続していかなければならないということ、授業を始めてみたものの子

どもたちの学習支援に直結しない場合、その対応や改善のために現場の教職員の方がさらに負担を強いられるのではないかなどを非常に危惧しており、ICTイノベーション推進室とも連携を取り、早急に計画策定を行い、施策につなげていただくことを提言いたします。／感染予防の日常行動についても、大阪維新の会から多くの要望を実現していただき感謝申し上げます。妊産婦の方に対してのPCR検査の助成や、保健センター内でのサーモグラフィーの設置など、学校園における感染症予防対策として、トイレ清掃などを事業者の方へ委託することについて、現状は教職員の方々が行っており、感染症対策や負担軽減につながると考えております。」

◆26番(小堀清次君)(P.43)「子育てや教育環境の確保に向けての予算か確認をしていきたいと思えます。学校給食費3か月分の無償化に要する費用とその実施理由をお聞かせください。」

◎教育次長(田所和之君)(P.43)「新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子育て世代への生活支援の1つとして、保護者の経済的負担を軽減するため、市立小学校及び支援学校に通う児童・生徒の保護者を対象に、8月から10月分の学校給食費を無償化するものであり、7月補正予算案として、5億3,546万1,000円を計上しております。」

◆26番(小堀清次君)(P.43)「経済的負担を軽減とのことですが、中学校給食の就学援助適用を見送り続けてきた市教委の答弁としては、真に受けがたいということは申し上げたいと思います。7月20日からランチタイムに始まったあれ、何ですか。」

◎教育次長(田所和之君)(P.43)「我々は簡易給食と称しております。」

◆26番(小堀清次君)(P.43)「では問います。簡易給食とのことですが、何らかの策を講じることはできなかったのでしょうか。2月27日の臨時休業決定から何日たっているのでしょうか。」

◎教育次長(田所和之君)(P.43)「今回の簡易給食でございますが、2月末の臨時休業決定以降、……簡易給食の実施の決定に至ったのは6月の中旬でございました。」

◆26番(小堀清次君)(P.43)「あと1品何とか追加できないのでしょうか。」

◎教育次長(田所和之君)(P.43)「……物資の調達や事前検査、そして食物アレルギーを有する児童への確認等に約1か月の期間を要することから、困難であると考えています。」

◆26番(小堀清次君)(P.43)「西宮市議会は、議会の求めに応じ簡易給食に1品追加を決めていますよ。本市ではできませんか。」

◎教育次長(田所和之君)(P.43)「担当課におきまして、安全・安心の観点を第一に、栄養価、アレルギーへの対応、価格をはじめ、様々な観点から検討した結果、1品のみを加えることによる安全性の確保、子どもの嗜好と食品ロス、アレルギー食対応の子どもの気持ち、栄養バランスの問題など、様々なことを総合的に判断して、1品の追加は難しいというふうに考えております。」

◆26番(小堀清次君)(P.44)「今日の議会の中で、できない理由をつらつらおっしゃり、そして、今後安全・安心で食物アレルギーにも配慮した物資の選定について研究をしていくような先ほど御答弁がありましたけれどもね、〇157学童集団下痢症から24年、安全・安心の学校給食提供は当然のことではありますけれども、思考停止に陥ってはならないと思います。本市は全員喫食の中学校給食を進めておりますけれども、今のような姿勢では実施から十数年後には当時日本一の中学校給食と言われるんじゃないかという懸念を持つんですけれども、教育長いかがでしょうか。(編者が付した下線部の意味不明—编者注)

◎教育長(中谷省三君)(P.44)「ただいま小堀議員のほうからは、私どもの7月20日から実施しております簡易給食について、まさに厳しい御意見を私はいただいております……。確かに2月の29日から休業をいたしました。その間、国の緊急事態宣言等もあり、その休業期間については延長してきたという経過……。そうした中で、現時点においては、これまでの休業期間による授業時間数をどうしても確保していかなければならない。児童・生徒たちの学びを保障していかなければならないという思いの中から、本来の夏季休業期間を短縮した中で授業の実施に向かった……。その間、授業時間数の確保につきまし

てはどうするのか。単に夏季休業期間を短縮するだけではなしに、その時間数、まさに何時間の授業をするのか、あわせて夏季休業期間以外の土曜日についての授業を実施するのかどうか、それと通常6時間までしているところを7時間授業をするのかどうか、いろんなことを考えながらしてきた……。／そうした中で、やはりこの夏場の暑い時期の授業について、子どもたちに負担を与えないという思いの中で、最大限、授業時間数を確保するために、4時間授業の実施をしようというところで思い至った……。／ただ、4時間授業が終わると昼になってしまうという中で、やはり暑い中で帰る子どもたちの体力、安全というものを考えた中では、何らかの形でサポートできないかという思いに至った次第でございます。そういう意味で、ただいま小堀議員からは厳しい指摘をいただきますけれども、簡易給食ということで、何か子どもたちにサポートできないのかということで、保護者の方からはいろんな意見を頂戴しています。確かに簡易給食ということで、学校で食べたけども、家でも帰って食べなければならないじゃないかというふうな御意見もいただいている……。けども、私どもとしましては、これまでの〇157の経験もあり、安全・安心を何よりも堺市としては第一義として考えた。その中でできる限りの、簡易給食ではございますけれども、こういった形で実施させていただいたところです。もう1品という議員の要望でございましたけれども、現時点においては本当に厳しい……。ただ、こういったことも踏まえて、しっかりと今後の対応については研究していかなければならないと考えています。／あわせて、先ほど中学校給食についても現時点に検討している……。これについてはセンター方式ということで実施しようということで研究・検討をしているところでございます。そうした中においては、中学校給食が実施できるときには、やはりその現場での環境というものは、しっかりと小学校の現場、給食現場における環境についても同等の現場の確保をしていかなければならないというふうに私は思っている……。／あわせて、やはり食育という観点から、子どもたちの健康をどう捉えていくのか、しっかりと給食の実施についても、その充実については今後もしっかりと検討していきたいと考えております。」

◆26番(小堀清次君)(P.45)「私は今日、給食について、簡易給食について厳しいことを申し上げましたけれども、これ、我々普通教室にエアコンをいまだ未整備であったならば、この暑いときに授業するんかということの本当は先に議論しなきゃならなかったと思う。それをしなくてよかったのは、我々が整備してきたから。ただ、だからよかったよねという話ではなくて、やはり先に先にとということで、この簡易給食についても申し上げました。けれども、今、御答弁で、中学校をセンター給食でやる。中学校のセンターと同等レベルのものを小学校にもこれから整備していくということをお約束いただけたことは……。よかったなと思っています。／……。私ごとで恐縮なんですけれども、大分かかってやっと昨日、娘がランドセルを決めてくれました。なかなか決まるのが大変で、改めて一人の父親として子どもを堺市の学校に9年間預けるという重みを、議員14年目にしてやっと……。感じているところです。やっぱり我々は思考停止に陥ってはならない……。しっかりと学校給食についても、中学校のみならず小学校についても、同等レベルのものを維持してやっていただくことを強く求めてこの点は終わります。」

◆26番(小堀清次君)(P.46)「第1子及び第2子のゼロから2歳児に関する保育料無償化について、その実施目的、経費をお示しください。」

◎子ども青少年局長(岡崎尚喜君)(P.46)「第1子及び第2子のゼロから2歳児の保育料無償化は、新型コロナウイルス感染症が社会経済に甚大な影響を及ぼしている状況などを踏まえ、特に経済的負担が厳しい子育て世帯を支援することを目的として、一定の所得制限を設けた上で認定こども園や保育所、地域型保育事業等の令和2年8月分から令和3年3月分までの保育料を無償化するものです。なお、これに係る経費としましては、約1億6,400万円を見込んでおり、令和2年第2回市議会において、6月補正予算として可決いただきました。」

◆26番(小堀清次君)(P.46)「経済的負担が厳しい子育て世代を支えるという意義に関しては理解をいたします。では、ただいまお示しをいただいた経費を、今回の補正でなく、6月補正に計上したのはなぜですか。」

◎**財政局長(坂本隆哉君) (P. 47)** 「新型コロナウイルスに対応するための補正予算は、本日御提案しているものも含めまして、今年度7回編成しております。新型コロナウイルスをめぐる状況が日々変化中、その時々に応じて必要な施策を打ち出してきたところでありまして、保育料無償化につきましても、庁内で議論、調整を経て、6月補正に計上したものです。」

◆**26番(小堀清次君) (P. 47)** 「この優先順位のつけ方については疑問を感じる……。保育士や社会的養護施設などの児童福祉施設は、国の第2次補正予算において慰労金の支給対象外となっていることを本市は承知していますか。」

◎**子ども青少年局長(岡崎尚喜君) (P. 47)** 「国は、医療従事者や介護、障害者福祉サービス施設の職員については、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金等において、慰労金の支給対象としていますが、児童福祉施設については慰労金の支給対象外としたとされています。」

◆**26番(小堀清次君) (P. 47)** 「慰労金の支給対象外となっていることを知りながら、なぜ対応しないんですか。」

◎**子ども青少年局長(岡崎尚喜君) (P. 47)** 「緊急事態宣言が発令され、認定こども園や保育所などを原則休園とした期間においても、国の考え方に基づく対応として、医療従事者や警察、消防、介護施設などの社会機能を維持するために、就業継続が必要な方などについては、感染予防に最大限の配慮をした上で、保育を継続していただくよう市よりお願い、要請してきました。子どもを預かる保育の現場では、密な状態を完全に避けることはできませんが、原則休園期間等においても、常に感染のリスクを抱えながら、どうしても保育が必要な子どもを受け入れていただいた保育士などの努力があってこそ、医療従事者などが第一線で活躍することができたと認識しており、感謝の意を表したい……。こうしたことから、保育士などの児童福祉施設職員に対して、慰労金等の支給をすることを検討してきましたが、国の考え方なども踏まえ、実施を見送ることとしました。」

◆**26番(小堀清次君) (P. 47)** 「ただいまの御答弁で、所管局である子ども青少年局は慰労金等の支給について検討したことはお認めになられたと感じます。本市は4月15日から認定こども園、保育所等の臨時休業を決めましたが、休園中も医療従事者などの家庭に対しては、保育を提供させました。リスクを冒し、保育に努めた保育士さんの努力に報いるべきと私は考え、慰労金等の支給を求めてまいったところでもあります。慰労金等の支給の見送りについて、子ども青少年局は、御答弁にはありませんが、当初、この間、調整をする中で、国や市の財政状況などということをおっしゃっておられたと記憶をいたしております。財政が逼迫をしているから今後一切市独自の補償、支援金や慰労金等を検討しないということではいけないと、私は考える……。国は休園中も運営費を通常どおり支給するからということですけども、それはあくまでも平時の話であり、現場を預かる本市として、事業所と従業者を混同していただいていることは困るということは申し上げておきたい……」。

◆**26番(小堀清次君) (P. 51)** 「新型コロナ対応サポーターの概要と担い手をお示してください。」

◎**教育監(松下廣伸君) (P. 51)** 「新型コロナ対応サポーターにつきましては、子どもたち一人一人の学習定着度に応じたきめ細かな指導を図るため、チームティーチング指導、習熟度別学習、家庭学習の準備チェックの実施など、学級担任の補助などを目的に配置するものでございます。」

◆**26番(小堀清次君) (P. 51)** 「厳しい市民経済の実態に寄り添うべきではないかということを申し上げます。コロナ禍でバイトや仕事を失った学生や市民を優先的にサポーターとして登録すべきと考えますが、いかがですか。」

◎**教育監(松下廣伸君) (P. 51)** 「新型コロナ対応サポーターの担い手としましては、教師志望の学生をはじめとする大学生を募集し、学校をサポートしていただくことに加えまして、地域住民の方を広く募集することにより、感染拡大の影響を受けている方への生活支援にも資するものと考えてございます。」

◆**26番(小堀清次君) (P. 52)** 「とりわけ中でもコロナ禍でバイトや仕事を失った学生や市民の方を対象にしていきたいと思うんですけど、どうですか。」

◎**教育監(松下廣伸君) (P. 52)** 「できる限り学生、また地域の方々に広く募集することを目的としまして、様々なポスター掲示など様々な工夫をしているところでございます。」

◆**26番(小堀清次君) (P. 52)** 「この取組については評価をしています。実際に各学校当たり200回でしたかね、100回、100回と見て、これ市内全部で100回言うて、1学校当たり一回もないのかなというふうに最初思ったんですけど、なかなか各学校当たり100回ということで、非常にきめ細かく配置をしていただいている点については評価をしたいというように思います。ただ、本事業、時給換算で申し上げますと800円なんですね。最賃を割っております。やっぱりこれ、やっていただく以上は、最低、最賃はしっかり超えていっていただかなきゃならないと思います。」

◆**11番(森田晃一君) (P. 57)** 「日本共産党の森田晃一でございます。……堺市一般会計補正予算について質問をさせていただきます。／まず、堺市の小・中学校の新型コロナウイルス感染症対策と学習環境についてお尋ねします。／3月の緊急事態宣言の下、堺市立学校園も3か月間の臨時休業となりました。6月に再開されましたが、感染症対策についてはこの間、堺市教育委員会としてどのように行われてきたのか、まずお答えください。」

◎**教育次長(田所和之君) (P. 57)** 「5月21日の国の緊急事態宣言の解除を踏まえまして、6月1日から十分な感染症対策を講じた上で市立学校園を再開いたしました。／主な感染症対策としては、児童・生徒など及び教職員のマスク着用、登校園時の健康チェック、手洗い励行、教室内の換気、児童・生徒等が密着しないための指導など、各学校園に対して感染症対策を徹底するよう指導しております。／教職員に対しては、児童・生徒等一人一人に関わる機会が多いことから、毎朝の自宅での検温や体調が悪いときの自宅休養など感染症対策の徹底に努めております。」

◆**11番(森田晃一君) (P. 57)** 「お答えのように、感染症対策によって衛生管理等の業務が増えているということが今の答弁で分かったと思います。／したがって、感染症対策を徹底するためにも、私たちが以前から要望しております養護教諭の増員は引き続き強く要望をさせていただきます。／なお、児童・生徒のマスク着用についてですが、コロナ対策に加えて、これからは熱中症対策も出てまいります。子どもたちの状況把握を常にしっかりと行って、マスクを取る必要性についてもぜひ市教委として現場に対してもしっかりと指導をしていただくよう要望をしておきます。／そしてまた、世界中で問題になった日本の対策の問題点、これはPCR検査の実施数であります。市中感染の広がりが今言われておりますが、学校教職員のPCR検査実施についてもぜひ検討……お願いいたします。／それでは、小・中学校の教室の状況についてお尋ねします。／堺市の基準は小学校では38人、中学校では40人です。64平米の教室でこの人数ですが、どのように考えているか、お示してください。」

◎**教育次長(田所和之君) (P. 58)** 「6月15日から通常登校を実施いたしておりますが、児童・生徒等の教育を受ける権利を保障していくためには、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で学校運営を継続していく必要があります。／学校においては、マスクの着用及び手洗いなどの手指衛生など基本的な感染症対策を継続するとともに、教室において密集、密閉、密接の3つの密が同時に重なることを避けるべく、教室の換気についても、授業中はエアコンを設置している教室でも換気扇を常時運転させ、休み時間は5分程度、2方向の窓を開けて換気するなどを通じまして、感染症対策に努めております。」

◆**11番(森田晃一君) (P. 58)** 「教室の実態、64平米に40人は、これ私が言わなくても誰が考えても分かると思いますが、まさに密集、密であります。今までこれが当たり前とされてきましたが、今日ではこれは決して許されない状況だと思います。／今答弁で学校の対応について述べられましたが、私が聞いたのは……認識であります。ところが答弁ではそれがなかった。これ、答えにくいんですかね。」

◎**教育次長(田所和之君) (P. 58)** 「その認識ですけれども、従前より38人、40人という学級で授業をやっていたという経過、そして今回コロナ禍においても、現在文部科学省のほうから特にその人数を少なくしなさいという指示も来てない状態ですので、現段階では今の現人数で密を重ならないようにと

いう対策を取りながら感染症対策をしていっている状態です。」

◆11番(森田晃一君)(P.58)「まだ国から指示が来てないからということですが、そういうふうにご答えていただければ後でまた聞きますので。／学校再開に際して、分散登校がこの間、行われました。中学生、20人の教室は静かで快適という感想も私たちの元に寄せられております。教職員の方からは、非常に快適だった、学習指導もやりやすかった、何より一人一人の顔が見えたということでございます。いいことばかりなんですね。／本議会に教員の追加配置、非常勤講師の追加配置が提案されております。これについて、その目的と人数そして配置、効果などについてお示してください。」

◎教育監(松下廣伸君)(P.58)「今回臨時休業期間が長期化したことから、小・中学校の最終学年、小学校6年生、中学校3年生の学びを最大限保障するために必要な教員を8名、常勤を6名、非常勤を2名、また同様に臨時休業の長期化に伴い、様々な課題を抱える児童・生徒等に対応するために必要な教員を2名配置するものとなりました。／なお、教員配置に加えた人的支援として、子どもたちの一人一人の学習定着度に応じ、きめ細かな指導を図るためのチームティーチング指導や習熟度別学習、家庭学習の準備・チェックの実施等における学級担任の補助などを行うため、新型コロナ対応サポーターを配置するものでございます。」

◆11番(森田晃一君)(P.59)「こちらについては小学校・中学校最終学年の学び保障のため、常勤講師6名、時間講師2名の追加配置ということで……す。様々な課題を抱える児童・生徒対応には、また新たに2名ということで……す。／堺市の小学校は92校、中学校は43、合わせて135校でございます。今年度限りの講師10人の配置では、私たちは学びの保障も課題への対応も、どう見てもこれは十分ではないというふうに思っております。感染防止と子どもたちの心身の安全と健康、そして学習、教員の追加配置の意味もそこにあるとするならば、やはり快適な20人学級の実施が必要だと思います。／少人数の教育についてはどのように考えているか、お示してください。」

◎教育監(松下廣伸君)(P.58)「少人数教育の現状としまして、小学校では3年生から6年生までにおいて、通常学級の在籍者数が平均38人を超えた場合に1名の加配を行いまして、市全体で35名配置してございます。小学校2年生に対しては在籍者数が平均35人を超えた場合に1名の加配を行い、市全体で23名配置してございます。／また、令和2年度は習熟度別指導加配を小学校81名、中学校97名、小学校高学年専科指導加配を小学校28名配置してございます。／これらの加配により教員が一人一人の児童と関わる時間が増えることで、きめ細かな指導が行われ、児童の自尊感情や学習意欲の向上に一定の効果が見られ、また採点や事務処理等教員の負担軽減により、子どもと向き合う時間の確保にもつながっています。／本市としましては、少人数指導の在り方について国の動向を注視してまいります。」

◆48番(長谷川俊英君)(P.71)「各局から出された予算要求の資料を私は財政局に見せてほしいと言ったんですが、見せられないと言われた。」

◎財政局長(坂本隆哉君)(P.71)「予算要求シートは公文書ですので、見せられないものではないと考えております。」

◆48番(長谷川俊英君)(P.71)「……職員を叱っておいてください。私は今日の議会で議論するに当たって、それを見たいからというふうに要求したにもかかわらず、それは見せられないという話です。／そこで、見せてもらえなかったのが、各局であります例えば健康福祉局長あるいは子ども青少年局長に聞きます。／今日も既に多くの議員の方々が議論された幾つかのテーマについて伺いますが、例えば健康福祉局の所管はこの補正予算の中で大変多いですね。例えば介護施設、障害者福祉施設等におけるクラスター感染に対する事前対策であるとか、医療用物資の備蓄、これなんかは市民の皆さんからの意見は大変評価できるとおっしゃってました。それともう一つ、これは子ども青少年局の所管になるんですね、定額給付金から外れている新生児への5万円の給付金、これも評価できるという話を聞きました。／ただ一方で、今日も信貴議員だとか、小堀議員からの指摘がありましたけども、感染拡大傾向が見ら

れるこの事態での保健所体制の抜本的な強化のところでは少し予算的な特徴がないんじゃないかとか、あるいはこれは子青局の担当になるんでしょうか、ひとり親家庭の支援あるいは困窮学生の支援施策、この辺が弱いんじゃないかという、こういう御意見いただいたんですが、両局長、この辺は予算要求されたんでしょうか。」

◎**子ども青少年局長(岡崎尚喜君) (P. 72)** 「まず、ひとり親家庭への支援についてでございますけども、この新型コロナウイルスの影響による中で、まずひとり親だけではないんですけども、子育て家庭の臨時特別給付金という制度で、児童手当の受給者は特別給付は除きますけども1万円プラスするという国の制度がございまして、それに基づきまして予算要求はもう既にさせていただいて手続を進めているところでございます。／あと、国の制度にもなるんですけども、児童扶養手当の受給者世帯及び低所得のひとり親家庭への支援としまして、第1子5万円、第2子以降3万円、収入が減少したひとり親家庭5万円という国の制度でございまして、これに基づきまして予算要求させていただいて、現在区役所と共に支給に当たっての手続を進めているところでございます。早ければ8月上旬には1回目の支給ができると考えてございます。／また、経済的不安を抱えるひとり親世帯に家計に関する様々な悩みを御相談していただけるようなファイナンシャルプランナーを活用しました助言ということで、これは市独自の制度ということで設けさせていただいて、7月の28日から実行するというふうな形で、今全くやってないということではなくて、国の制度を活用しながらさせていただいている状況でございます。」

◎**健康福祉局長(隅野巧君) (P. 72)** 「保健所の体制強化につきましては、先ほどの小堀議員との議論の中にもございましたように、検体の運搬であるとかあるいは実際保健所のOBの手を借りて、実際に会計年度任用職員を雇うために登録制度をしたりとかいうことで動いていく中で流用している予算を、そのまままた補正を組んで追認するような形でしていくような予算編成を今この7月補正でお示しているところでございます。」

◎**市長(永藤英機君) (P. 72)** 「少し補足をさせていただきます。／まず保健所の機能強化につきましては、私も第1波のときから保健所の体制、本当に大丈夫かということを経次直接会って話を聞きまして、保健所長はもちろんですが、全ての保健センター長とも話を聞いて、そして随時各区からも協力を得ながら保健所体制というものを整備をしてきました。／今般におきましても、随時人員の増強はしておりますが、例えば人事異動等で拡充をしたいといったときに本当にこれで大丈夫かと、さらにこれから増えることも想定をしながら拡充をしてほしいということを常に話をしておりまして、今回予算にはついておりませんが、人員の面、あとはサポート体制、また大阪府と協力しながら、今k i n t o n eというシステムを使っていますが、さらに業務の効率化も含めて体制の強化を図っておりますので、保健所、今濃厚接触者全員検査をするという状況になっていますから、その追跡も含めてかなり多忙だと思えますが、しっかりとサポートができるように、市民の皆様の安心につながるように体制を整えていきたいと思っています。／もう一つ、ひとり親家庭の方についてです。／これも当初から本当に厳しいということをお聞きをしたり、市民の声も全て目を通しておりますが、そのような声もあります。その中で、4月、5月本当に堺市の財政事情は厳しい状況でございましたので、ひとり親家庭の方だけでもかなり予算が回らなかったという状況がございました。その中で国が定額給付金を実施をするというときには、まず先駆けてひとり親家庭の方にお渡しをする、6月上旬までにお渡しをしまして、そして先ほど答弁にもありました7月31日、今月中には新たにひとり親家庭への支援というものを行っていく。そして、ファイナンシャルプランナーの、まずはお金をお渡しするだけではなくて家計の相談にもきっちり対応しながら、これから安心して生活をしていただける、そのような取組もしております。／また、今まだ感染が収まっていないというよりも拡大をしている時期ですので、臨機応変に対応できるように、本当に困った市民の方々をお支えできるように……対応してまいります。」

◆**48番(長谷川俊英君) (P. 73)** 「予期していなかった市長の御答弁で、市長がある意味かなり御自身の思いも込めて積極的に何かをしようとおっしゃってる意図はよく分かりました。／ただ、その前の子

ども青少年局長と健康福祉局長の答弁を聞いておまして、市長ほどの積極性を感じられなかったと。というよりも、私にこのことをおっしゃってる市民の方々は、他の都市ではいろんなことをやってる。確かに市長の言葉にもありました、あるいは子青局長も答えたファイナンシャルプランナーという話がありますけれども、間接的なんですね。やっぱり直接的な給付あるいは支援という点では、やっぱり堺市の施策というのを見劣りがするところから、その方はおっしゃってると思うんですね。／保健所の体制強化のことを市長がお答えになったんであれですけども、先ほどからの御答弁の中でもPCR検査の機器の購入とかおっしゃってます。そうじゃなくて、やっぱり体制の話です、私が持ち出してるのは。これは市長が絶対臨機に対応しなきゃいけないとおっしゃってるから、これ以上は言いませんけれども、その辺のところはもっとやっぱり原局が積極的になってもらわなきゃいけないんじゃないかという感じが今いたしました。そのことだけ申し上げておきたい。……」

(2020年10月2日現在「堺市議会会議録検索システム」で検索可能な堺市議会の対象会議録の抄は以上)

堺市議会会議録検索システム